

東北工大 須藤結子さんが参加

フィリピンでの建設プロジェクト



キャリア・ア・ナビゲーション(東京都区文京区長嶋哲夫代表)

取締役が企画し、全国の建築・土木学生20人を対象にフィリピンで井戸掘りな



須藤さん(左)と菊池教授

このプロジェクトは、キャリア・ナビゲーションとNPO法人タビスキ(兵庫県 奥田智恵子代表)による募集型企画旅行で、選考を経た20人の学生がフィリピンのパンダノン島を中心にインフラ整備を行うもの。2025年から継続的な取り組みを行っていく国際協力支援プロジェクト。初回はパンダノン島で井戸掘り4基とエコビレッジ建設に伴う施設を取り囲む掘づくりを行う。期間は今月5日から11日までの6泊7日。学生の費用はキャリア・ナビゲーションが負担する。

プロジェクトに参加する20人のうち東北エリアからは東北工業大学工学部都市マネジメント学科菊池研究室4年生の須藤結子さんが選ばれた。須藤さんは岩手県久慈市出身で2016年8月に発生した台風10号による河川氾濫の際に避難をしそびれて怖い思いをした経験から、同大学に進学し土木工学や防災と避難行動について学んだ。この春から新社会人としてフジタに

入職し土木の施工管理の仕事に就く。「土木というイメージからか、現場で働いているということ周囲に言いづらかったりする」と本音を漏らしながらも「プロジェクトに参加する他のメンバーと話すなかで、土木のイメージを良くしたいという気持ちが強くなった」と前を向く。

学科長で須藤さんが所属する研究室の菊池教授は「大学では知識中心になるため、実践の場として知識をどう活かせるのか、学んできたことにどういった限

界があるのかを勉強してほしい」と述べ「物事に対する取り組み方や現場対応力を身に付けて、仕事を見据えたコミュニケーションを意識してほしい」とエールを送った。

須藤さんは「就職先では現場を管理する立場になると思うが、実際に作業に当たる経験はなかなかできない。フィリピンの現状を自分の目で見て、感じて学びたい」と気を引き締めた。なお帰国後は3月29日と30日にオンラインで報告会を行う予定だ。